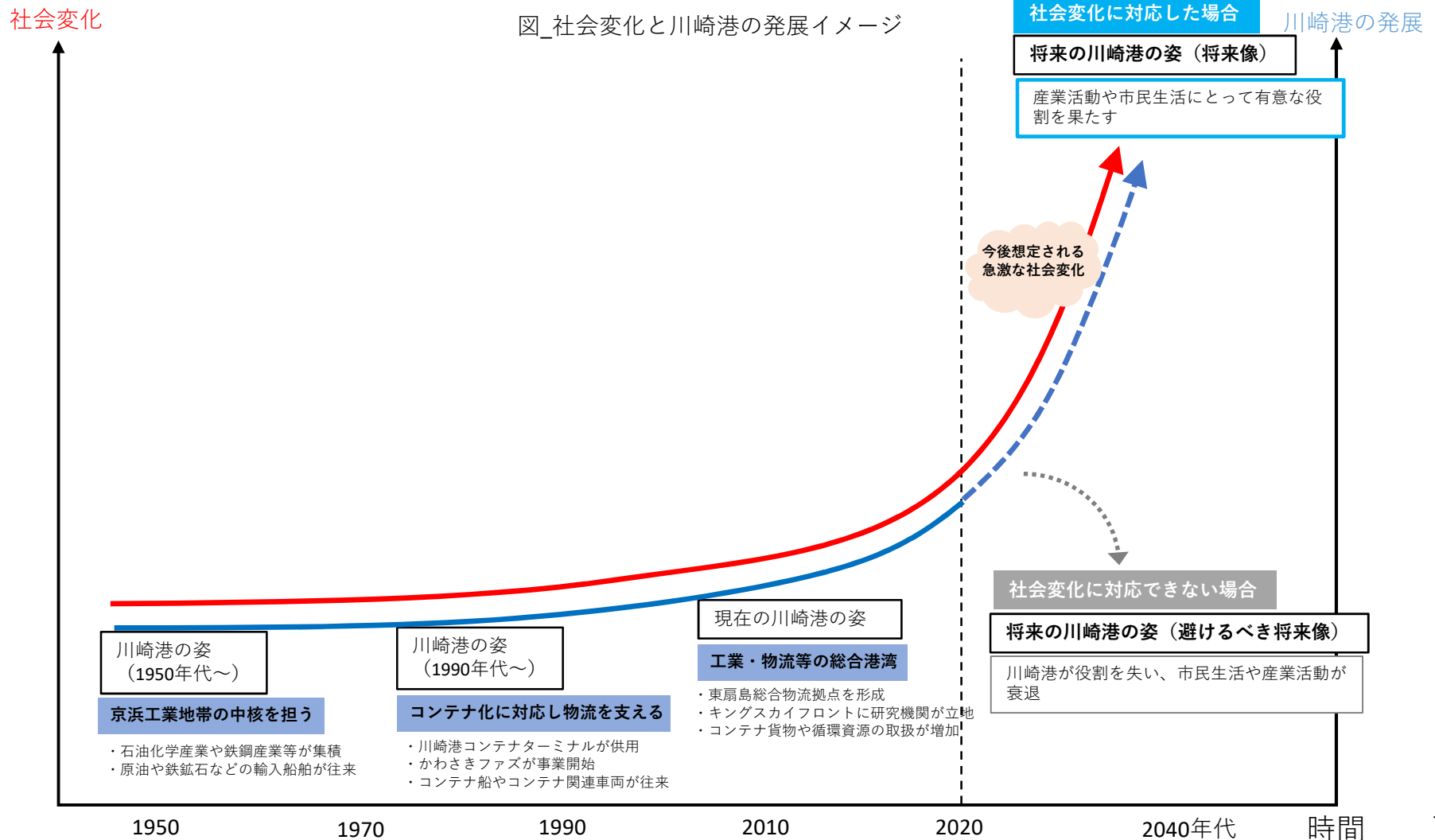


川崎港の位置付けについて

資料 2 - 1

川崎港長期構想策定の意義

- 川崎港はこれまで京浜工業地帯の中核を担い産業を支えるとともに、コンテナ化に対応し物流を支える等、社会の変化に対応し、発展してきた
- 脱炭素化の加速やデジタル技術の革新等、急激な社会変化が想定される将来（2040年代）においても有意な役割を果たすことができるよう川崎港の将来の姿（位置付け）を設定し、その実現に向けた取組方針等を示す



川崎港の位置付けについて

【現川崎港長期構想】1998年策定 30年程度先（2028年頃）の位置づけ

工業港の有する機能を活かしながら、高度な物流拠点をもつ総合港湾

【川崎港の目指す方向性 ①】

経済社会のカーボンニュートラル化等の社会変化に適応した力強く発展する産業を支え続ける

- 暮らしの質を向上させるような新たな価値を、企業・団体などの多様な主体と共に創造するなど、地域経済の活性化を図りながら、環境問題をはじめとする国際的な課題解決へ貢献し、我が国の持続的な成長を牽引する「**力強い産業都市づくり**」（川崎市総合計画）
- **第4次産業革命を先導する新たな拠点**を核に産業が波及し、日本の成長を牽引（臨海部ビジョン）
- **炭素循環型コンビナート**の形成（川崎カーボンニュートラルコンビナート構想）
- **カーボンニュートラルなエネルギーの供給拠点**の形成（川崎カーボンニュートラルコンビナート構想）
- **新たな資源エネルギーの受入・供給**等の拠点形成（PORT2030）

【川崎港の目指す方向性 ②】

従来主眼に置いてきた産業のみならず、生活物資の輸入や、立地特性を活かした特別な体験の提供を通じ、**豊かな生活も支えていく**

- **誰もが**多様な生き方や考え方を寛容に認め合いながら、寄り添い、支え合い、社会に貢献することで生きがいを持ち、**日常生活の質的な充足**や郷土への愛着と誇りを強く感じることができる**成熟したまち**（川崎市総合計画）
- **成熟社会における「豊かさ」を実現**し続ける、ワクワク感を抱ける地域（臨海部ビジョン）
- **ブランド価値を生む空間形成**（PORT2030）
- **コンテナ物流に関する国際競争力の強化**を図ることで、我が国産業の活性化、**生活の安定性を確保**する（京浜港の総合的な計画）

【川崎港の目指す方向性 ③】

カーボンニュートラル化やデジタル化等の社会変革に適応し、**持続可能な港として運営する**

- 成長と成熟の調和による**持続可能な最幸のまち**かわさき（川崎市総合計画）
- 川崎市**自らが率先して**行動を示す（かわさきカーボンゼロチャレンジ2050）
- **港湾・物流活動のグリーン化**（PORT2030）
- **情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化**（PORT2030）
- **市民の財産及び公共施設に係る被害の最小化**（かわさき強靱化計画）

【次期川崎港長期構想】20年程度先（2040年代）の川崎港の位置づけ

同時期を見据える

川崎市総合計画の基本構想（2016年作成）
⇒30年を展望（2046年頃）
臨海部ビジョン（2018年作成）
⇒30年後（2048年頃）の将来像

経済社会の変化に適応した産業や豊かな生活を支える持続可能な川崎港